

平成 26 年度第 1 回北区文化財保護審議会 審議要旨

日時：平成 26 年 12 月 24 日（水）10 時～11 時 30 分

場所：北区飛鳥山博物館講堂

【出席者】

<委員>加藤会長、石川副会長、塩澤委員、根崎委員、初田委員、山崎委員

<事務局>田草川教育次長、大石飛鳥山博物館長、塚田事業係長、山口学芸員、田中学芸員

【次第】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 審議会挨拶
4. 議題
 - (1) 北区指定有形民俗文化財「十条富士塚」の現状調査の中間報告
5. 報告事項
 - (1) 旧大蔵省醸造試験所第一工場の重要文化財指定
 - (2) 東京書籍株式会社附設教科書図書館東書文庫所蔵資料の保存計画
 - (3) (株)リーブルテック工場棟・事務所棟・守衛所の解体予定
6. その他
 - (1) 委員の再任について
 - (2) 次回審議会日程について
7. 閉会 教育委員会挨拶

【議事要旨】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 審議会挨拶
4. 議題
 - (1) 北区指定有形民俗文化財「十条富士塚」の現状調査の中間報告

○事務局 一資料説明一

○委員

塚の沈下量計測結果図面から、B.M. 基準点より階段部分が相対的に隆起している要因について、一つはB.M. 自身が沈んでいる結果、相対的に階段部分が隆起している可能性、もう一つは、頂上部分の土地が沈んだことによる跳ね上がりということか。

○事務局

そのとおりである。

○委員

擁壁の外側からどんどん土が抜けていると想定していたが、調査データからは、そうではなく、墳頂部の盛土自身が真ん中だけ沈み込みを起こしている。墳頂部の頂上部の盛土が危険な状態だと分かった。また、試掘孔のセクション図から古墳の形成・構築が非常によく分かった。砂利がローム層中から見つかったが、これは古墳の埋葬施設の床の部分にあたる可能性だけでなく、旧石器時代の礫群の可能性もある。この可能性も考慮し、古墳だと断定してしまわないほうがいい。昭和初期と現在の塚の比較写真から、富士塚としての盛土部分が相当流れ去っているということがよく見える。

○委員

富士塚の本来の形状・経過が相対的に最もよく残っているのは、階段の右側、北東側の傾斜のみで、西側・南側が相当削られている。その結果として上の部分がどんどん流れ、加速しているということだろう。今後は北東側の傾斜を重視することが必要である。

○会長

盛土層を全部取り除くような工事をやったときに、それが文化財として指定した価値が損なわれないかどうかを審議会としても議論していかななくてはいけない。安全性のためある程度の工事はしなければいけないが、どこまでの工事が文化財としての価値を損なわないかどうか、どういう判断をしているか、前例を調べてほしい。

○委員

この一帯、台地べりに古墳があるが、ほとんどその原型が失われてしまっており、そういう意味では古墳としても価値があり、富士塚ゆえに残された非常に貴重な資料である。この古墳がどういう特徴を持っているか、中心部分にも一定程度の考古学的な調査がなされることが望ましい。

○会長

危険な部分に関しては安全性を確保しなければいけない。どう補強工事をするか、具体的な

方法を模索してもらいたい。

○委員

道路の問題を考えるためには、階段及び階段のすぐ北側の道路に直交しているラインの断面図を作っていただきたい。

5. 報告事項

- (1) 旧大蔵省醸造試験所第一工場の重要文化財指定
- (2) 東京書籍株式会社附設教科書図書館東書文庫所蔵資料の保存計画
- (3) (株)リーブルテック工場棟・事務所棟・守衛所の解体予定

6. その他

- (1) 委員の再任について
- (2) 次回審議会日程について

7. 閉会 教育委員会挨拶